

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



●りんご作業（10／15～11／15）

中生種の収穫や晩生種の着色管理が最盛期となっています。農作業事故には十分注意し、安全第一で作業に努めて下さるようお願い致します。

リンゴの収穫については、早すぎると貯蔵中のビターピットの発生が多くなり、遅すぎると油あがりや果肉の軟質果の原因となります。地色の抜け具合を確認し、適期収穫に努めましょう。また、収穫した果実はその日の内に入庫することを心掛け、鮮度維持に努めましょう。

※リンゴの盗難に注意が必要な時期となりました。園地での野積みは絶対に避けるようお願いいたします。

●ナシマルカイガラムシについて



ナシマルカイガラムシの被害果。

発生密度が急増しているナシマルカイガラムシ。果実被害のみならず、多数の寄生を受けた枝幹は生育が止まり、枯死することが挙げられます。定着部位については、丸葉は薬剤が届かないところの主枝に多く見られ、わい化では主幹の頂部に多い傾向です。左上写真にもあるように、発生密度が高いと細い枝にも多く寄生しており、果実被害に直結しています。

防除については、発芽前にマシン油50倍を散布すると効果が非常に高く、春先の散布が厳しい場合は収穫後の秋散布が有効となります。ただし、この時期は降雨等の影響により地盤が緩いため、SS走行に係る危険性が高いことを決して忘れないで下さい。前年に秋の散布試験を実施した結果、平坦地であっても走行が厳しい条件下にありました。SS走行路の安全を必ず確認してから実施するようにお願いします。尚、春先における散布は、展葉期の登録があったとし

ても葉に葉害を生じる恐れがあります（ハーベストオイルは展葉期の登録なし）。特に、樹勢が弱い樹や腐らん病に感染している樹などは注意が必要です。また、「こじ」が発芽前であっても、「シヨナゴールド」などの生育が早い品種は既に発芽しているため、園地の品種構成を十分把握した上で実施を検討しましょう。

※6月中旬頃におけるコルト（顆水）3,000倍の散布は、あくまでも被害果軽減措置にしかならない。

●疫病対策について

疫病は土壤中に生息し、秋になると菌密度が高まります。また、果実被害の発生は貯蔵中及び出荷後に多く見られます。対策として次のことに十分注意して作業へ当たりましょう。

（1）降雨時の収穫はできるだけ避ける。

（2）収穫カゴの底にネットを敷き、果実が地面と直接接触しないようにする。

（3）泥の付いた手袋などで果実を触らない。

（4）反射シートを片付けるときは、

土を飛散させないように注意する。

●積雪前の野ネズミ対策

園地が汚れていると、野ネズミの侵入が容易になり、被害を受けやすいので園地をいつも清潔にすることが大切です。生息密度低下のため、殺そ剤と忌避剤を併用した対策に努めましょう。

・忌避剤による防止

（1）アンレスの10倍液を樹幹部に塗布又は散布する。

※ 使用するときには、噴口のつまりを防ぐため、よく練ってから希釈をおこないましょう。また、24時間降雨等がないことを見越して使用してください。

（2）根雪前、樹幹下半径50cmの範囲の落葉、雑草等をあらかじめ取り除いた後、フジワン粒剤を1樹当たり200g均一に散布し、表土とよく混和する。

・被害の回避

樹幹に対する野ネズミの被害は成木よりも若木に多いため、苗木及び若木は晩秋に地上1m位の高さまで合成樹皮のプロテクターなどの被覆資材を巻きつけて下さい（積雪の深いところでは更に上まで）。

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素よりJA相馬村フルーツ
テーションをご利用いただき誠に
ありがとうございます。

9月の果実販売動向をお伝えい
たします。

モモについてですが各産地で出
荷の最終盤となり、9月中頃には
概ね各市場にて販売終了となりま
した。売り場の中心はすでに秋果
実へと切り替わっていたため、一
部気温の高かった九州などの市場
を除き荷動きは鈍く、価格は下げ
基調での販売となりました。

ナシについてですが月の前半は
豊水、中盤以降は秋月・新高梨な
どの販売となりましたが、売価高
から流通在庫を多く抱えながらの
販売となりました。季節商材とし
て売り場の中心とはなっているも
のの荷動きは鈍く、値段を下げて
の荷動き重視の販売となりました。
ブドウについては山梨や長
野などのシャインマスカットがピー
クとなり、潤沢な入荷となりました

た。大房傾向の上総体量が増加し
ていったため各市場とも回転を重
視した販売となり、末端での企画
も多く組まれたことから活発な荷
動きとなりました。黒系ブドウに
ついては一部産地で高温による着
色不良が見受けられたものの概ね
入荷は順調で、こちらも価格を下
げつつの回転重視の販売となりま
した。

リンゴについては長野県産
サンつがる・本県産きおう・本県
産サンつがると徐々に切り替わっ
ていく中での販売となりましたが、
末端ではシナノリップ等の極早生
品種や前年産の有ふじなどの在庫
をいまだ抱えているところもある
など、つぎの品種が出てきても常
に前の品種の在庫を多く抱えてし
まうこととなりました。特にバラ
売りが中心となる32玉以上の大玉
が入荷比率が高く、厳しい販売と
なっております。

今後についてですが、ナシにつ

いては10月には最終盤を迎え、総
体量は減少していきます。それに
伴って在庫の整理は進むため、荷
動きの回復が見込まれます。

ブドウについては長野県産シャ
インマスカットなどを中心に潤沢
な入荷は続く見込みです。売り場
は引き続き広くとられて、企画や
消費宣伝会などは多く予定されて
いますが、販売以上の入荷となっ
ているため流通在庫も増えてきて
おり、価格は弱含みとなる見通し
です。

リンゴについては長野県産は秋
映、本県産はサンつがるに加えて
徐々に早生ふじの出荷が始まり、
売り場も中生種へと切り替わって
いきます。そのためサンつがるへ
の引き合いは弱まっていくことが
予想され、軟質果の懸念もあるこ
とから、早期出荷及び柔軟な価格
対応が求められます。長野・本県
共に単価高の維持は難しい販売が
続く見通しです。今後中生種の時
期となると様々な品種がピークを
迎えることとなります。適切な販
売時期を逃さぬよう、市場動向に
注視しながら計画的に選果・荷造
り作業を進めてまいります。

全農あおもりデータ（9／29累計）

品 種	つがる	きおう	ト キ	その他	合 計
単 価 (円)	3,111	3,268	3,556	3,568	3,177
前 年 比 (%)	79	91	98	101	83
販 売 数 量 (箱)	481,974	122,617	450	36,680	641,731
前 年 比 (%)	129	115	23	117	125

※10k ダンボール1箱当りの数値となります